

2020年-2021年

地域連携年報

第八号

滋賀短期大学
地域連携教育
研究センター

SHIGA JUNIOR COLLEGE
COLLABORATIVE
RESEARCH & COMMUNITY
COOPERATION CENTER



年報第八号 2020—2021 合併号の発刊にあたり

地域連携教育研究センター長 深尾秀一

2019 年後半に発生した新型コロナウイルス感染症は、国内においては一般的にコロナと呼ばれている。そして「コロナ禍」と呼ばれる状況は、すでに2年が過ぎ去ったが、収束は未だ先が見えない状況である。この2年間、様々な社会変容が起こり、ニューノーマルといわれる新しい行動様式も生まれた。このような状況下でも、滋賀短期大学の教育活動は、学生の教育を受ける権利の保障と感染症対策を両立させ、対面授業を主に行ってきた。しかし残念ながら、地域連携教育研究センターにおいては、不特定多数とかかわる地域連携事業が多く、その多くを中止とせざるを得ない状況となった。多くの事業を実施が出来なくなったため、令和2年及び令和3年の地域連携教育研究センター活動2年分の報告をここにまとめて発刊する。

コロナ禍であろうとも、人々の生活や、地域の動きを止めることはできない。地域連携教育研究センターでは、本学の教育研究知見を活かした各種事業を再構築し、地域の知の拠点としての責務を全うしていく所存である。

目次

1. 地域連携教育研究センターの体制	1
--------------------------	---

【2020 年】

2. 地域との連携による教育研究活動	
(1) ヘキセンハウスの製作	北川 志信・・・ 2
3. 大学及び自治体との連携事業	
(1) 地域移動講座	
1) 地域移動講座 in 長浜	久米 央也・・・ 3
2) 地域移動講座 in 大津	三上 佳子・・・ 4
4. 高大連携事業	
(1) 滋賀県教育委員会の連続講座	5
(2) 滋賀県等の高等学校への出前授業	5
(3) 大学見学受け入れ時の講座	6

【2021 年】

5. 地域との連携による教育研究活動	
(1) ヘキセンハウスの製作	北川 志信・・・ 7
6. 地域に向けた公開講座	
(1) 守山すみれ講座	
1) 運動の基本“歩行”～ノルディック・ウォーキングのすすめ～	北尾 岳夫・・・ 8
2) 支援としての音楽～療法的音楽の導入から社会利用へ～	柚木たまみ・・・ 9
3) 子どもが心を動かす食体験を考えよう	原 知子・・・10
7. 大学及び自治体との連携事業	
(1) 地域移動講座	
1) 地域移動講座 in 守山	三上 佳子・・・11
2) 地域移動講座 in 近江八幡	浜崎 由紀・・・12
3) 地域移動講座 in 長浜	久米 央也・・・13
4) 地域移動講座 in 大津	附属すみれ保育園 園長 前川 頼子・・・14

8. 高大連携事業

- (1) 滋賀県教育委員会の連続講座…………… 16
- (2) 滋賀県等の高等学校への出前授業…………… 16
- (3) 大学見学受け入れ時の講座…………… 18

○資料

- 新聞などに掲載された記事（2021 年 1 月～12 月まで）…………… 19
-

1. 地域連携教育研究センターの体制

1. 目的

地域連携教育研究センターは、本学の研究活動の向上に関わる支援とともに、地域連携に関わる教育研究の推進等を目的とする。

2. 実施体制

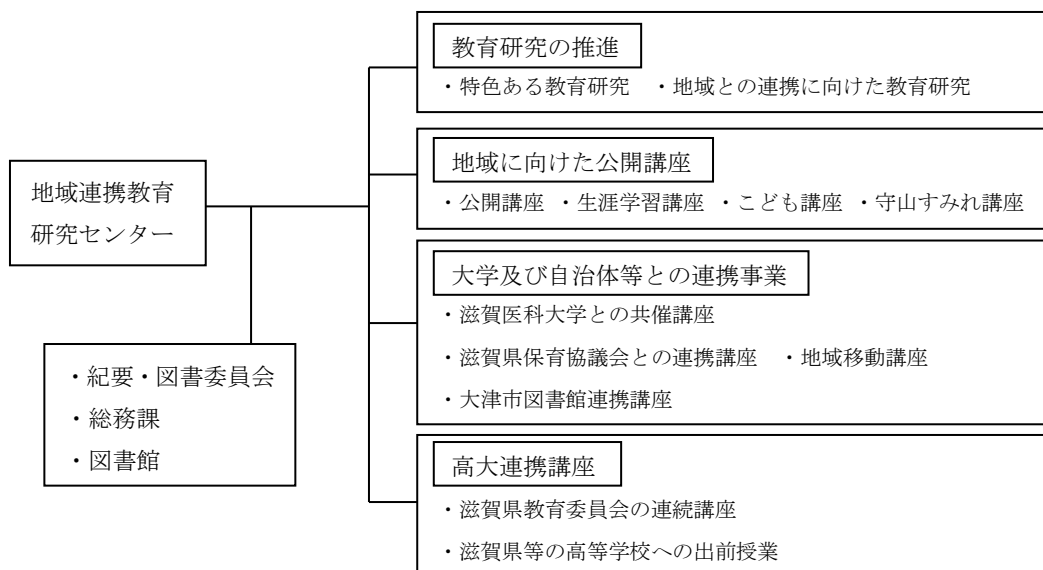
(1) 実施組織について

地域連携教育研究センターは、上記の目的を達成するため、センター長、地域連携教育研究センター員、総務課及び図書館職員によって組織される。

地域連携教育研究センターの構成（2021年度）

氏 名	所属・職名
深尾 秀一	幼児教育保育学科教授 ・センター長
石井 明	生活学科教授
灰藤友理子	生活学科助教
永久 欣也	幼児教育保育学科特任教授
田中 裕之	ビジネスコミュニケーション学科教授
中村 吉弘	ビジネスコミュニケーション学科特任教授
松村 都子	地域連携教育研究センター准教授
中野 英樹	次長（総務課長）兼 図書館室長
山本眞砂子	総務課係長兼地域連携教育研究センター係長

(2) 実施体制図



〔2020年〕

2. 地域との連携による教育研究活動

(1) ヘキセンハウスの製作

生活学科 北川 志信

はじめに

平成 25 年度からびわ湖大津プリンスホテルより依頼されているヘキセンハウスの製作も今年度で 8 年目を迎え、今年度も石井明教授の指導の下、ベーカリー塾の 2 回生が中心となり活動した。

活動内容

今年度は「サンタさんの幸せプレゼント」をテーマに製作したヘキセンハウスは、クリスマスまでの約 1 か月間ホテルのロビーに展示された。

小麦粉、砂糖、卵、バター、シナモンやバニラパウダーといったスパイス類を使用したパータ・ヘクセンハウスという生地を用いてヘキセンハウスを組み立てた。マジパンでサンタや動物などの登場人物を作り、アイシングでクリスマスツリーや家などを装飾した。

学生がテーマを決め、イメージを膨らませながら製作し、完成させるまでに約 1 か月かかった。びわ湖大津プリンスホテルの今年のテーマ色が青色と虹色であったため、どのように取り入れるか考案した。毎年、展示が好評なため、今年度も展示期間を延長し、12 月 26 日以降はお正月バージョンに装飾を変え、1 月以降も展示された。



まとめ

ホテルの顔になるものを作るという責任感と、作ることの楽しさを感じながら活動できることは、本当に幸せな事だ。学生達は、実習で培った技術を存分に発揮できたのではないと思う。授業終わりや休日にも積極的に作業に励んでいたため、完成したときは達成感があったことだろう。この経験は、今後の成長に大きくつながると思う。



今年度はコロナウイルス感染予防のため、ベーカリー塾としての学外活動を活発にできなかった。そんな中、大変貴重な機会を与えてくださった、びわ湖大津プリンスホテルの方々に心から感謝したい。

3. 大学及び自治体との連携事業

(1) 地域移動講座

1) 地域移動講座 in 長浜

幼児教育保育学科 久米 央也

1. はじめに

令和2年8月18日(火)長浜市役所高月支所において、地域連携教育講座を開催した。この講座は長浜市教育センター自己啓発研修との連携のもと、幼稚園、保育所、認定こども園研修会「自己啓発研修」として「就学前と小学校との連携、接続について」をテーマに講演を行った。

2. 講演内容

幼稚園教育要領をはじめとする3法令の改訂(改定)に伴い、就学前教育と小学校教育との滑らかな接続の重要性が強調されている。今回は昨年度に引き続き就学前教育と小学校教育の接続を中心に具体例をもとに講演した。

講演内容は次の通りである。

(1) 就学前と小学校の接続 なぜ必要なのか。

就学前と小学校の接続をお互いしっかりと考え教育することの大切さについて具体的な子どもの姿をもとに話をした。

(2) 「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」はなぜ今なのか。

幼稚園教育要領に掲載された「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の詳しい説明とその必要性について、「ペリー就学前プロジェクト」の例をもとに説明する。

(3) 「3つの資質能力」はなぜ今なのか。

今回の幼稚園教育要領改訂で大きく変わったのが3つの資質能力である。これは幼児教育から高等教育までを貫くものである。幼児教育における3つの資質能力とは具体的にどんな姿であり、どう育んでいけばいいのかについて具体的な例をもとに説明する。

(4) 数・量・形の興味、感覚を育てる言葉かけ、環境構成について。

10の姿の1つにある「数・量・形の興味、感覚を育てる」ことについて、幼児の活動での具体的な姿をもとに説明する。

(5) 小学校教育 何が変わらないといけないのか。

「心が動く」保育の学びを接続する重要性を説く。小学校授業において「心が動く」材との出会いを大切に授業実践例をもとに説明する。

まとめ

長浜市では2年連続の講座となった。保育園、幼稚園・小学校それぞれの教員が関心を持って聞いていただいた。今後も保幼小連携について研究を続け地域に発信していきたい。

(1) 地域移動講座

2) 地域移動講座 in 大津

幼児教育保育学科 三上 佳子

1. はじめに

令和 2 年度の地域移動講座 in 大津は、大津市と滋賀短期大学の共催により、令和 2 年 11 月 19 日(木)大津市立市民文化会館において開催された。大津市内の保育園や認定こども園の代表保育士 44 名を対象として、「人が育つために自分が学ぶ一人材育成につながるパターン・ランゲージの活用」をテーマに講義と演習を行なった。

2. 講演内容

講義では、「子ども理解を基盤とした日本の保育者の保育力」が世界と比べて質が高いと示した調査を紹介する。その保育力を伝承していくために、ミドルリーダーの秘訣「パターン・ランゲージ」のカードを使った「人が育つ・自分が学ぶ工夫」を語り合うツールを伝える。カードの人が育つ園づくりの 27 の言葉は、中堅に見られる人材育成の秘訣を共通(パターン)にし、言語化(ランゲージ)したものとなっており、ミドルリーダーである代表保育士が各園で活用できることも伝える。

演習では、4～5 名のグループが、各自で「パターン・ランゲージ」の園づくりの言葉を選び、人材育成につながる経験談や解決の方法を語り合った。

3. まとめ

市内の公民代表保育士同士が、保育を語り合う研修は多いが、今回、語り合うツールが具体的な言葉で共有化された。例えば、「がんばりのリスペクト」のカードでは、保育者が保育の中で自信がなくなった時、一生懸命努力していることに敬意を払い、認め合った事例を語り合っていた。そのことをきっかけに、これから園で実践できることが話し合われていた。

保育者としての第一歩は養成校から始まっている。今回の「パターン・ランゲージ」は、保育者としての必要な実践知のヒントがあり、保育現場だけでなく、学生同士の語り合いにも生かせると感じた。今後、養成校の抱える課題と共有しながら、地域との協働を推進していきたい。

カテゴリ	グループ	園づくりのことば	実践 チェック ○	グループの 資料ポイント (6～)
保育者が成長できる 環境をつくる	日々の実践と成長を支える	1. 自分の意見から		
		2. 見過ごしのひとこと		
		3. やる気がでる手助け		
	心が通う関係になる	4. 目標の共有		
		5. ひと呼吸おく		
		6. がんばりへのリスペクト		
	さらなる成長へと導く	7. 褒め言葉		
		8. 学びへの姿勢		
		9. 原則に立ち戻る		
人をつなぐことで 子どもが育つ場をつくる	園内の異なる立場をつなぐ	10. 思いの通訳		
		11. 声のすくい上げ		
		12. みんなで育てる		
	保育者間の交流を促す	13. 経験のミックス		
		14. 会話が生まれるし掛け		
		15. 感謝の意		
	保護者とのよい関係を築く	16. 意識の共有		
		17. 信頼の醸成		
		18. とともに育てるパートナー		
保育者としての第一歩は養成校から始まっている	新しい学びを育んでいく	19. ワタワタの素朴		
		20. 能力的な実践見学		
		21. 新たな試み		
	続けていけるように工夫する	22. より大きな意味での保育		
		23. 子どもたちとの時間		
		24. 充電タイム		
	園のこれからをつくる	25. 園を超えた交流		
		26. 強みの芽		
		27. 未来のリーダー		

園づくりのことば保育をつなぐミドルリーダーの秘訣

井庭崇 秋田喜代美編著 引用 丸善出版

4. 高大連携事業

(1) 滋賀県教育委員会の連続講座（2020 年）※コロナ禍により中止

- 1) 2020 年 8 月 5 日 滋賀短期大学・・・中止
食を通して世界を学ぶ 中米 トウモロコシ 中平真由巳（滋賀短期大学教授）
- 2) 2020 年 8 月 26 日 滋賀短期大学・・・中止
赤ちゃんに絵本は必要か？～乳幼児理解と赤ちゃんを知る～ 浜崎由紀（滋賀短期大学講師）
- 3) 2020 年 9 月 12 日 滋賀短期大学・・・中止
「はたらく」とはどういうことか考えよう 江見和明（滋賀短期大学准教授）

(2) 滋賀県等の高等学校への出前授業（2020 年 1 月～2020 年 12 月）

※コロナ禍による中止分除く

- 1) 2020 年 1 月 29 日 安曇川高校
幼児教育・保育について 浜崎由紀（滋賀短期大学講師）
- 2) 2020 年 8 月 5 日 八幡商業高校
カルシウム足りてますか？～必要な量と食べ方の工夫を知ろう～
山岡ひとみ（滋賀短期大学講師）
- 3) 2020 年 8 月 25 日 野洲高校
保育のなかの絵本 浜崎由紀（滋賀短期大学講師）
- 4) 2020 年 9 月 28 日 石部高校
保育に携わる仕事 幼稚園・保育園・認定こども園等の先生になる
三上佳子（滋賀短期大学准教授）
- 5) 2020 年 9 月 28 日 石部高校
おもしろ旅のエッセンス 江見和明（滋賀短期大学准教授）
- 6) 2020 年 10 月 12 日 大阪緑涼高校
進路・面接について 沖山圭子（滋賀短期大学教授）
- 7) 2020 年 10 月 28 日 大津清陵高校
保育と音楽 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
- 8) 2020 年 12 月 4 日 栗東高校
紙から広がる造形の世界 深尾秀一（滋賀短期大学教授）
- 9) 2020 年 12 月 4 日 栗東高校
知っておきたい金融知識 江見和明（滋賀短期大学准教授）
- 10) 2020 年 12 月 8 日 水口東高校
栄養ってなんだろう 灰藤友理子（滋賀短期大学助教）

-
- 11) 2020 年 12 月 8 日 水口東高校
幼稚園・保育園・認定こども園等の先生になる 三上佳子（滋賀短期大学准教授）
 - 12) 2020 年 12 月 11 日 近江高校
栄養ってなんだろう 灰藤友理子（滋賀短期大学助教）
 - 13) 2020 年 12 月 11 日 近江高校
事務や営業の仕事をのぞいてみよう 若生眞理子（滋賀短期大学准教授）
 - 14) 2020 年 12 月 16 日 滋賀短期大学附属高校
保育検定対策「音楽・リズム表現技術」受験者対策講座 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
 - 15) 2020 年 12 月 21 日 国際情報高校
栄養ってなんだろう 灰藤友理子（滋賀短期大学助教）

(3) 大学見学受け入れ時の講座（2020 年 1 月～2020 年 12 月）

※コロナ禍による中止分除く

- 1) 2020 年 2 月 14 日 長浜農業高校
いちごタルト作り 石井 明（滋賀短期大学教授）
- 2) 2020 年 12 月 21 日 京都翔英高校
生活学科体験授業 石井 明（滋賀短期大学教授）
幼児教育保育学科体験授業 久米央也（滋賀短期大学准教授）
ビジネスコミュニケーション学科体験授業 山中博史（滋賀短期大学教授）

〔2021年〕

5. 地域との連携による教育研究活動

(1) ヘキセンハウスの製作

生活学科 北川 志信

1. はじめに

平成 25 年度からびわ湖大津プリンスホテルより依頼されているヘキセンハウスの製作も今年度で 9 年目を迎え、今年度も石井明教授の指導の下、ベーカリー塾の 2 回生が中心となり活動した。

2. 活動内容

今年度は「サンタと小人の忙しいクリスマス」をテーマに製作したヘキセンハウスは、12 月初旬からクリスマスまでの約 1 か月間ホテルのロビーに展示された。

小麦粉、砂糖、卵、バター、シナモンやバニラパウダーといったスパイス類を使用したパータ・ヘキセンハウスという生地を用いてヘキセンハウスを組み立てた。マジパンでサンタや動物などの登場人物を作り、アイシングでクリスマスツリーや家などを装飾した。雪をイメージして地面が白いアイシングで覆われているため、全体を見たときに色とりどりの建物が映えた仕上がりになった。背の高い時計台や汽車などもあり、またひと味違う作品が出来た。

学生がテーマを決め、イメージを膨らませながら製作し、完成させるまでに約 1 か月かかった。びわ湖大津プリンスホテルの今年のテーマが「エンジェルからの贈り物」であったため、どのように取り入れるか考案した。

毎年、展示が好評なため、今年度も展示期間を延長し、12 月 26 日以降はお正月バージョンに装飾を変え、1 月中旬まで展示された。



3. まとめ

ホテルのロビーという目に留まりやすい場所に置かれる作品であるため、作業する学生からは責任と、少しの緊張を感じた。自分たちのイメージを再現するためには、配色や模様をどのようにするべきか、など学生同士で案を出し合い作業をする姿が見受けられた。思慮に思慮を重ねた結果、細部までストーリー性がある作品が出来た。その創造力を今後も存分に発揮してほしいと思う。

今年度こそは、ベーカリー塾として活動できる機会が増えることを願っていたが、コロナウイルス感染予防のため、昨年度同様に活発に活動できなかった。そんな中、学生たちにとって大変貴重な機会を与えてくださった、びわ湖大津プリンスホテルの方々に心から感謝したい。



～ノルディック・ウォーキングのすすめ～

幼兒教育保育學科 北尾 岳夫

省力化が進む暮らしの中で身体活動量の低下が問題視されており、コロナ禍でますます出歩くことがしにくくなってしまった昨今、その傾向にさらに拍車をかけていることが想像されます。そのような社会状況の中、多くの人が運動することの大切さに気付いたのではないかと思います。光景として、街中でウォーキングをする姿を多く見かけるようになりました。ひとくちにウォーキングといっても、有酸素運動として意味のあるウォーキングをするには少々知識も必要です。今回は、スキーで使用するストックを用いたノルディック・ウォーキングに挑戦してみました。

令和3年11月7日（日）の午前中、守山市にある滋賀短期大学附属すみれ保育園を会場にして、総勢12名（平均年齢62歳）の方にご参加いただき、守山すみれ講座の第1回目として健康をテーマに開講しました。参加者の皆さんは歩くことの重要性について関心をお持ちで、熱心に講義を聞いてくださるとともに実技にも挑戦していただき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

スマホのアプリでみたウォーキングの軌跡

事後アンケートを拝見させていただいたところ、今回のテーマ設定は非常に好評でした。継続的に開講して欲しいというご意見、またストレッチなども指導して欲しいというご意見もいただき、皆さんの健康への関心が高いことを再確認することができた講座でした。

(1) 守山すみれ講座

2) 支援としての音楽

～療法的音楽の導入から社会利用へ～

幼児教育保育学科 柚木たまみ

1. はじめに

筆者はこれまで音楽科教員、音楽療法士、そして演奏家として教育研究に携わり、音楽というものと教育、福祉、心理、社会そして文化モデルの中で関わってきた。本講座では、筆者のこれまでの経験と研究をもとに、音楽の持つ特性と社会利用について講じた。

2. 内容

講座は、Ⅰ「音楽」を知る Ⅱ「音楽」を奏でる Ⅲ「音楽」を利用する、応用する という三部構成で実施した。

Ⅰでは、まず、音楽の起源について、①声 ②打楽器 ③管楽器 ④弦楽器 ⑤舞踊の5つの説があることを述べた。次に音楽の生まれた目的についても、①祈り=気持ちの抛り所 ②伝達手段、サイン ③所属確認=一体感 ④模倣=文化や学問へ ⑤愛情表現 という5つの目的があることを述べた。そして、これらの起源と目的をもって行われる音楽活動は、①聴く ②楽器演奏 ③歌唱 ④舞踊 ⑤作曲 ⑥言語化 という6つの種類に分類できることを説いた。いずれの内容についても、生活の中の事例を挙げながら説明し、特に6つの音楽活動に関しては、どの活動も特別なものではなく、誰もが実際に行なっている活動であることを加えた。さらに音楽の持つ10の特性について説明し、音楽は、音楽活動の種類の多彩さと豊富な特性を持つことが、さまざまな状況の中で用いられ、利用される理由であり、活用されうるツールであることを述べた。

Ⅱでは、受講者とともに実際に楽器を用いてアンサンブルを行った。楽器はトーンチャイムを使用し、楽器自体が持つ特徴と魅力、およびアンサンブル活動の持つ社会的な意味を体感した。また、図形譜の紹介をし、音楽演奏に伴う読譜のハードルを下げ、自由に音楽を捉える可能性の拡がり図形譜を教育・保育に取り入れる意義を伝えた。

Ⅲでは、音楽療法におけるひとつの技法として、音楽を用いた回想法を紹介した。だれもが人生の節目に思い出の音楽があり、受講者各々にとっての思い出の音楽を語ってもらい、回想法が、さらなる人生と向き合う勇気と自己肯定につながることを述べた。

他に、ブレイクタイムを設け、音楽による脳トレを導入した。

3. 総括

受講者の方々は熱心に受講してくださった。保育や福祉の現場に携わる方、また教育に携わっていた方が多くおられ、講座後も非常に貴重な意見と感想を返してくださった。これらは筆者のフィードバックの材料となり、今後の教育研究に役立たせていただく所存である。講座の内容が、受講者それぞれの生活シーンで気軽に利用してもらえらるワークショップであり、さらに応用される内容となったことを願う。

(1) 守山すみれ講座

3) 子どもが心を動かす食体験を考えよう

生活学科 原 知子

1. はじめに

子どもたちが感動した時の表情は実に生き活きとしている。生活の中で子どもが心を動かす食体験の一つの例として、だしの味の変化に注目して一緒に体験した。本能的に求める味であるうま味は、昆布だしと鰹節のだしが合わさると相乗効果で7.5倍程度強く感じられる。さらに適量の塩分が加わるとしまったおいしいだしとなる。不思議なこと、びっくりすること、じんわりと身体にしみてくること、そんな体験の一つとして家事の一環としても実施できる例としてだし講座を実施した。

2. 実施日時、場所等

令和3年11月27日(土曜日)、10時～12時、すみれ保育園にて。

参加者は大人9名、子ども4名であった。

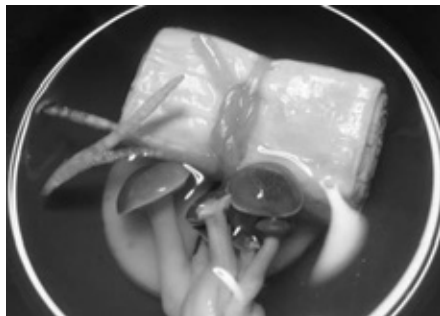
3. 実施概要・お話

*大人対象のお話として満足感を得るうま味を利用して生活習慣病を予防しよう、

*だしの色々

*お話をはさみながら、全員でまず昆布だしを、目の前で鰹節を加えて、部屋中にだしの香りが漂う中で、合わせだしを味わって、うま味が強くなったことを確認した。その後、湯葉、かまぼこなどの椀だねに、塩と淡口しょうゆで加減をしたらだしを試飲した。

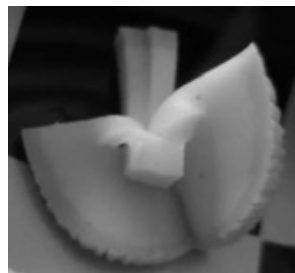
*簡単なかまぼこの飾り切りを、希望するお子さんに実作をしてもらった。



4. 感想

ひとくち飲んだとたん「おいしい」という言葉が聞け、うま味の力を感じた。

五感を鍛えることの重要性が再認識されているが、非日常の食育イベントのみならず、日々の生活の中で五感の刺激を認識していただけたら幸いである。



最後になりましたが、参加者の皆様、すみれ保育園、事務担当の方々に記して感謝申し上げます。特に地域連携センターの松村都子先生には準備から講座時間中と、大変お世話になり深謝いたします。貴重な機会をありがとうございました。

7. 大学及び自治体との連携事業

(1) 地域移動講座

1) 地域移動講座 in 守山

幼児教育保育学科 三上 佳子

1.はじめに

令和2年度の地域移動講座 in 守山は、守山市と滋賀短期大学の共催により、令和3年1月7日(木)守山市役所でリモートによる講座が開催された。守山市内の幼稚園や保育園や認定こども園を対象として、「保育者同士の語り合いから生まれる実践知を言語化—パターン・ランゲージを使って、経験談や学んだことを語り合う」をテーマに講義とロールプレイを行なった。

2.講演内容

講義では、今後、10年～20年程度で総雇用者の約47%の仕事が自動化されるといわれている。今、保育者の実践知や経験知を伝承していくために、言語化していくツールとして「パターン・ランゲージ」を紹介する。「保育者同士のコミュニケーションによる実践知」「保育者としての姿勢・態度のセンス・コツ」「保育者同士の協働性」など保育をする中で、共通して大切にしてきたことを「パターン・ランゲージ」のカードを活用して、語り合うツールを伝える。

ロールプレイでは、守山市の中堅や3～5年経験の保育者が参加し、「パターン・ランゲージ」を使った語り合いを実践する。リモートのため、視聴している各園が、身近に感じられるよう、園づくりの言葉を選び、人材育成につながる経験談や解決の方法を語り合った。

3.まとめ

「パターン・ランゲージ」には、すでに答えが出ている。保育を語り合う時、どうしても結論で解決を見出すことが多いが、今回、保育者が答えに関連する自分の経験や学んだことを出し合い、園づくりの強みとなるように語り合う過程を大切にしたい内容であった。参加者からは「園でも実践してみたい」「園独自のパターン・ランゲージを作りたい」と言う声が聞かれた。

今後、リモート研修も選択の一つとなるが、視聴している園が、参画できる研修のあり方を今後も、考えていきたい。また、「パターン・ランゲージ」は実習園の保育者と学生の対話の中でも生かせるツールでもあることから、地域講座を通じて、伝達していきたい。

No.18 人をつなぐことで子どもが育つ場をつくる ともに育てるパートナー	No.19 保育についての意識改革をつくりだす ワクワクの素材
子どものために、保護者と保育者がともに取り組めるように仲立ちをする。	保育の素材や空間をコーディネートし、みんなのワクワクを引き出す。
保護者と保育者のよう関係を使いたいと思っています。	子どもたちの想像力や創造性を育む場でありたいと考えています。
▼その状況において 専に保護者からの要望を受け入れたり、逆に園から保護者にお願ひしたりするだけの関係では、期待が果たされないときに不調な気分が生まれ、関係がこじれてしまうことがあります。	▼その状況において 想像力をかきたてワクワクするような、製作や見立てのための材料を個々の保育者が準備することは、時間や労力の関係で難しいものです。
▼そこで 保護者と保育者は子どもの生活における異なる「パートナー」であるという認識を、保護者と保育者の双方に持ってもらうように仲立ちをします。 園づくりに関しては、井庭 秋田喜代美 大庭由紀	▼そこで 日頃から保育に使える素材を収集し、いつでも使えるようにまとめてストックしておき、子どもや保育者の発想を刺激します。 園づくりに関しては、井庭 秋田喜代美 大庭由紀

「園づくりのことは保育をつなぐミドルリーダ ーの秘訣」

井庭 崇 秋田喜代美編著 引用 丸善出版

(1) 地域移動講座

2) 地域移動講座 in 近江八幡

幼児教育保育学科 浜崎 由紀

1. はじめに

令和3年1月14日(木)に近江八幡市総合福祉センターひまわり館において「2020年度近江八幡市幼稚園・保育園・認定こども園・家庭的保育室等職員研修会、滋賀短期大学地域移動講座 in 近江八幡市」を開催した。近江八幡市と共催し、職員研修会として「子どもたちに伝えたい絵本」をテーマに講演した。コロナ禍のなか、感染症予防を徹底しながらの開催で、お忙しい仕事の合間をぬって20名近くの先生方が参加してくださった。

2. 研修内容

はじめに、子どもの発達をふまえ、子どもに絵本を読むことの意義についてお伝えした。次に、子どもの絵本を選ぶ手がかりについてお話しした。子どもの絵本イコール「かわいい」絵本と捉えられがちであるが、そうではない。子どもの絵本は子どもの心によりそっていることが大切で実際に絵本を紹介しながら、「かわいい」だけが子どもの絵本でないことを確認した。また、発達過程にいる子どもは、「大きくなること」を求めているので、ストーリーは、明確で向日性のあるものを選ぶことが大切であることや大人にとって面白い内容であっても、子どもにとっては、自分のことを笑われたり、からかわれているように感じることもあることもお伝えした。選書の際には、十分に気をつける必要がある。

また、保育のなかで絵本を読むとき、大人は子どもに分かせようとしがちであるが、そのときわからなくても感じる事が重要である。子どもの心に残る絵本選びをしてほしいことや絵本は作品の思想性を伝えることにもなるので、大切に選んでいただきたいことをお伝えした。

3. 研修時の様子

近江八幡市では、地域の図書館と幼稚園、保育園、認定こども園等が連携をして、保育現場の絵本の配架を充実し、子ども達が絵本に囲まれた生活ができるよう取り組まれている。今回、先生方は、とても熱心に研修を受けてくださり、質問も多く寄せてくださった。アンケートには、「目の前の子どもたちに絵本の楽しさを共有できるようにしていきたいと思います。」「絵本を選ぶという事の意味や大切さを感じました。明日からの保育実践にいかしていきたいと思います。」など、先生方の熱心さが窺えた。

4. おわりに

コロナ禍での開催のため、演習的な内容は実施できなかった。本来であれば、絵本を持ってきていただき、お互いに読み合ったり、園での実践の様子を話し合う等のワークショップを取り入れるなどできればよかったと思う。制限はあったが、今回の研修が少しでも現場で役に立てれば幸いである。

(1) 地域移動講座

3) 地域移動講座 in 長浜

幼児教育保育学科 久米 央也

1. はじめに

令和3年11月4日(木)長浜市役所浅井支所において、地域連携教育講座を開催した。この講座は長浜市教育センター自己啓発研修との連携のもと、幼稚園、保育所、認定こども園研修会「自己啓発研修(就学前・小連携講座)」として「お互いを知り、接続することから始まる保育・授業改善～算数授業を窓口にお互い何が変わらなければならないのかを考える」をテーマに講演を行った。

2. 講演内容

幼稚園教育要領をはじめとする3法令の改訂(改定)に伴い、就学前教育と小学校教育との滑らかな接続の重要性が強調されている。今回は昨年度に引き続き就学前教育と小学校教育の接続を幼児期の算数的活動と小学校算数授業改善を中心に具体例をもとに講演した。

講演内容は次の通りである。

(1) 就学前と小学校の接続 なぜ必要なのか。

就学前と小学校の接続をお互いしっかりと考え教育することの大切さについて具体的な子どもの姿をもとに話をした。

(2) 「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」はなぜ今なのか。

幼稚園教育要領に掲載された「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の詳しい説明とその必要性について、「ペリー就学前プロジェクト」の例や「マシュマロテスト」の例をもとに説明する。

(3) 数・量・形の興味、感覚を育てる言葉がけ、環境構成について。

10の姿の1つにある「数・量・形の興味、感覚を育てる」ことについて、幼児の活動での具体的な姿をもとに説明する。

(4) 小学校教育 何が変わらないといけないのか。

「心が動く」保育の学びを接続する重要性を説く。小学校授業において「心が動く」材との出会いや「問を持つ」授業を大切に実践例をもとに説明する。

3. まとめ

長浜市では3年連続の講座となった。保育園、幼稚園・小学校それぞれの教員が関心を持って聞いていただいた。今後も保幼小連携について研究を続け地域に発信していきたい。



(1) 地域移動講座

4) 地域移動講座 in 大津

滋賀短期大学附属すみれ保育園 園長 前川 頼子

1. はじめに

大津市保育協議会 保育士・保育教諭部会に於いて、市内の公立民間保育園・こども園に勤務されている保育士・保育教諭を対象に地域移動講座in大津を、令和3年11月17日(水)に「人材育成と働きやすい職場づくり」をテーマに講演を行った。日々忙しい中で保育士さんたちが、自分らしく仕事に向かい、楽しく保育するためには？と悩みも多く聞かれ、生き詰まる中に発想の転換になるヒントが出せるように内容を進めた。



2. 講演内容

(1) コロナ禍においての園での取り組み

① 子どもが思い思い遊べるよう環境を充実させる。

子どもが「やりたい」「やってみたい」と思える、自由に遊べる環境を保障する。

これは子どもが色々な場所に散らばるので、結果的に密が避けられる。

コロナ禍とはいえ子どもの成長を止めるわけにはいかない。3密を避けながら子どもの活動は保障していく。



② 子どもの気づきを引き出す対話的な保育

「不思議だね」「どうすればいいかな」など問いかけたりする直接的なコミュニケーションが子どもの探求心や好奇心を育む。

(2) 職員の確保・配置・資質の向上

① ノンコンタクトの導入(保育から離れる時間)

保育の振り返りの中、学び合いと連携(コミュニティ)時間、研修、教材研究の時間、保育事務時間、有休取得推進。

② 担任の固定化とシフトの単純化

- ・12時間の保育時間を、午前午後担任として配置して連携することで保育計画の保障をしている。

- ・午前午後担任配置による時間有給取得の協力体制と子どもの安定を図っている。

- ・早朝保育・土曜保育担当者配置による保育の区分けと充実も行っている。

- ・ノンコンタクトの時間内でも保育の流れを把握しながら、お互いに連携し合う場面もある。



(3) 人とともに成長できる職場

① 保育士は保育の専門性を磨くだけでなく、仕事以外にも様々な人たちと出会ったり、葛藤したり、悩んだり、人間としての感受性を高めて欲しい。

② 子どもと関わる仕事は、子どもの育ちにかかわる。

保育者の行動提示（ふるまい・言動）は保護者の方は見ている。この先生に預けてよかった。

この園に預けて良かったと思ってもらえる安心できる園、また先生であって欲しい。

保育者は、子どもにとって「環境」であり、保護者の元気のモトは、保育者の笑顔である。

3. まとめ

研修後に各園から感想をいただいた。職員の育成の難しさを改めて実感するとともに様々な課題や問題点があり、それぞれの園の仕組みなどによる原因もあることにも理解できた。

今保育の世界の状況を踏まえ、低い最低基準、安い給料、長い労働時間、保育士不足等困難はあるものの、今与えられている状況の中で最大限努力し、工夫し子どもたちが健やかに成長できる保育園、職員が笑顔で生き生きと楽しく働ける職場環境を目指し、前向きに取り組むことが大切なのではないかと思う。



8. 高大連携事業

(1) 滋賀県教育委員会の連続講座（2021 年 8 月）

- 1) 2021 年 8 月 4 日 10:40～12:10 滋賀短期大学
宇宙人への手紙～人はいろいろであるということ～
笹倉千佳弘（滋賀短期大学教授）
- 2) 2021 年 8 月 4 日 9:00～10:30 滋賀短期大学
非認知能力ってなに？ 保田恵莉（滋賀短期大学特任教授）
- 3) 2021 年 8 月 4 日 13:20～14:50 滋賀短期大学
会社で働くということ 江見和明（滋賀短期大学教授）

(2) 滋賀県等の高等学校への出前授業（2021 年 1 月～2021 年 12 月）

- 1) 2021 年 1 月 7 日 滋賀短期大学附属高校
保育検定対策「音楽・リズム表現技術」受験者対策講座 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
- 2) 2021 年 1 月 14 日 滋賀短期大学附属高校
保育検定対策「音楽・リズム表現技術」受験者対策講座 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
- 3) 2021 年 1 月 18 日 大津高校
こどもの歌あそび、音あそび 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
- 4) 2021 年 1 月 27 日 北大津高校
紙から広がる造形の世界 深尾秀一（滋賀短期大学教授）
- 5) 2021 年 3 月 12 日 湖南農業高校
紙から広がる造形の世界 深尾秀一（滋賀短期大学教授）
- 6) 2021 年 3 月 12 日 堅田高校
幼児教育の基本～遊びの中の学びって何？～ 久米央也（滋賀短期大学准教授）
- 7) 2021 年 3 月 12 日 堅田高校
栄養ってなんだろう（身近にある“食”を通じて考えてみましょう）
灰藤友理子（滋賀短期大学助教）
- 8) 2021 年 3 月 17 日 守山北高校
金融機関の仕事について 江見和明（滋賀短期大学教授）
- 9) 2021 年 3 月 23 日 長浜北星高校
「栄養」って何だろう 灰藤友理子（滋賀短期大学助教）
- 10) 2021 年 6 月 21 日 大阪緑涼高校
面接指導講演 沖山圭子（滋賀短期大学教授）

-
- 11) 2021 年 6 月 23 日 守山北高校
「生きる力」「学ぶ」を考えてみる～子どもの姿を通して～ 松村都子（滋賀短期大学准教授）
 - 12) 2021 年 6 月 23 日 守山北高校
ビジネスと DX 小山内幸治（ビジネスコミュニケーション学科教授）
 - 13) 2021 年 7 月 1 日 彦根総合高校
金融機関の仕事について～銀行勤務の経験から～ 江見和明（滋賀短期大学教授）
 - 14) 2021 年 7 月 8 日 伊香高校
幼児教育・保育を学ぶ 三上佳子（滋賀短期大学准教授）
 - 15) 2021 年 7 月 9 日 石部高校
保育の中の音楽 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
 - 16) 2021 年 7 月 9 日 石部高校
観光業界の現状とホテルの仕事 中村吉弘（滋賀短期大学特任教授）
 - 17) 2021 年 7 月 12 日 八幡商業高校
自分に必要なカルシウムの量を知ろう！ 山岡ひとみ（滋賀短期大学講師）
 - 18) 2021 年 9 月 22 日 能登川高校
自分に必要なカルシウムの量を知ろう！ 山岡ひとみ（滋賀短期大学講師）
 - 19) 2021 年 9 月 22 日 能登川高校
会社経営について知ろう！ 江見和明（滋賀短期大学教授）
 - 20) 2021 年 10 月 5 日 大津高校
こどもの歌あそび、音あそび 柚木たまみ（滋賀短期大学教授）
 - 21) 2021 年 10 月 7 日 大津高校
乳幼児のための音あそび 松井典子（滋賀短期大学准教授）
 - 22) 2021 年 12 月 15 日 八幡高校
栄養素の種類とはたらき 清水まゆみ（滋賀短期大学教授）
 - 23) 2021 年 12 月 16 日 国際情報高校
食と健康について考える 灰藤友理子（滋賀短期大学助教）
 - 24) 2021 年 12 月 17 日 栗東高校
乳幼児保育・教育への誘い 松村都子（滋賀短期大学准教授）
 - 25) 2021 年 12 月 17 日 栗東高校
金融機関の仕事について～銀行勤務の経験から～ 江見和明（滋賀短期大学教授）
-

(3) 大学見学受け入れ時の講座（2021 年 1 月～2021 年 12 月）

1) 2021 年 1 月 25 日 長浜農業高校

世界の地域の食文化 中平真由巳（滋賀短期大学教授）

2) 2021 年 1 月 25 日 長浜農業高校

いちごタルトのナパージュ 石井 明（滋賀短期大学教授）

3) 2021 年 12 月 10 日 栗東高校

幼児教育の基本を学ぼう!～遊びを通して学ぶ子どもたち～

久米央也（滋賀短期大学准教授）

4) 2021 年 12 月 10 日 栗東高校

自分も相手も大切にするコミュニケーション 若生真理子（滋賀短期大学准教授）

2021年10月1日(金) 京都新聞

滋賀短大 デジタル学科新設へ 学科連係、短大で初活用

滋賀短期大学(大津市)は30日、来年4月に「デジタルライフビジネス学科」を新設すると発表した。データサイエンスやデジタルデザインを学び、仕事と生活の両面でデジタル社会に対応できる人材を育てる。複数の既存学科の教員、施設を用いて新学科を立ち上げる「学科連係課程実施学科」で、短期大で同制度の活用は全国初という。

デジタルライフビジネス学科は定員30人で2コースを設け、生活学、ビジネス学、データサイエンスをどちらも学ぶ。「デジタルビジネスコース」はウェアラブルデザイン、CG(コンピュータグラフィックス)、プログラミングといったアイデアをデジタル空間で実現できる技術を、「デジタルライフコース」はファッションデザインなどものづくりでイメージを形にする技術を学ぶ。

学科と定員は全体で3学科計330人から4学科300人となる。幼児教育保育学科を150人から100人に減らし、生活学デザインコース(10人)をデジタルライフビジネス学科に統合した。

2021年10月1日(金) 中日新聞

デジタル教育重視 滋賀短大が新学科 定員30人

滋賀短期大学(大津市亀が丘)は30日、デジタル分野の教育を重視した「デジタルライフビジネス学科」を、来年4月に新設すると発表した。入学定員は30人とする。

新学科は、既存の生活学とビジネスコミュニケーション学科の一部分野を統合させて設置。両学科のフ

融合が可能となった。新学科はこの制度を活用した。新学科の設置に合わせ、定員割れが続く幼児教育保育学科の定員を五十人減らす。同短大の三年度入試では、四学科で計三百人を

募る。

県庁で会見した秋山元秀学長は「短大は少子化で厳しい状況にあるが、新学科でデジタル社会に対応できる人材を育成したい」と話した。(森田真奈子)



新学科の設置を発表する秋山学長(左)と副学長(右)

同短大は現在、生活(定員80人)、幼児教育保育(150人)、ビジネスコミュニケーション(100人)の3学科。幼児教育保育は近年、定員割れが続く。学科新設に伴い、定員を生活は10人、幼児教育保育は50人それぞれ減らし、3学科330人から4学科300人とする。

同短大は1970年

具だくさんみそ汁で健康に 甲良でレシピコンテスト



一般の部で受賞した（前列左から）野口さん、久保田さん、深井さん、奥川さん

＝甲良町の道の駅せせらぎの里こうらで

地元食材を使用し、健康に配慮したオリジナルみそ汁のレシピを募る「具だくさんみそ汁コンテスト」の表彰式が十四日、甲良町の道の駅「せせらぎの里こうら」であった。

「具だくさんみそ汁」は

野菜やだしのおま味を活用することで塩分を控えることができ、健康増進につながるとして、甲良町が食育の一環で普及に取り組んでいる。

コンテストは町内の飲食店や観光施設などをつくる

「こうらウェルネスツーリズム実行委員会」が実施。三十一品の応募があり、小学生と一般の部でそれぞれ最優秀賞一品、優秀賞三品を選んだ。

小学生の部の最優秀賞は、町内の野瀬かなさんの「お日様パワー野菜みそ汁」。干し野菜を使った素朴な味が評価された。一般の部は、米原市の滋賀短大生活学科二年、久保田悠花さん（㊀）。「近江どりと根菜のみそ汁」と題し、地元産野菜と近江鶏を使って満足のある一杯に仕上げた。久保田さんは「学校で学んだことを生かすいい経験になった」と話した。

審査員の一人、県立大人間文化学部生活栄養学科の奥村万寿美准教授は「審査し応えのある立派なみそ汁がそろった。レシピを見て

家庭でも作ってみて」と講評した。（石曾根和花）

◇優秀賞の皆さん 小学生の部
上田梓乃、浜野貴久、本村陸人
▽一般の部 深井果林、野口真奈美、奥川未来

園児らに「マナーかるた」贈ります



「マナーかるた」をつくった若生准教授と学生たち＝大津市役所で

滋賀短大生ら制作

大津

（大津市）は

十八日、大津市内四十三の市立保育園と幼稚園に「マナーかるた」を贈った。贈呈式が市役所であった。かるたは「あそんだらみんなでいっしょに おかたづけ」「たのしいよ みんなでいっしょに あそぼうよ」など、子どもが遊

びながら、日常生活でのマナーやあいさつの大切さを身につけるよう工夫した。

同大ビジネスコミュニケーション学科の若生真理子准教授と、ゼミの学生らが考案。対面で話すときの言葉だけでなく表情や視線、動作、姿勢などの重要性を優しく伝えようと、二年前から制作を進めた。若生准教授は市の乾一彦幼保支援課長にかるたを手

渡し「幼児らがかるたを通して、コミュニケーションの大切さを身につけてほしい」と話した。

（山村俊輔）

お菓子の家 かわいい

大津のホテルに登場

滋賀短大生がXマス飾り

びわ湖大津プリンスホテル（大津市）のロビーに、滋賀短期大学の学生がクリスマスの飾りとして作ったお菓子の家が登場した。サンタクロースの人形がプレゼントを準備するかわいらしい姿もあり、来訪客を魅了している。

同短大生活学科のパン・スイーツ研究サークル「ペーカリーヌ」が2013年から毎年



滋賀短期大の学生が作ったお菓子のケーキ（大津市におのびわ湖大津プリンスホテル）

製作しており、今年は14人の学生で完成させた。

飾りは幅1.8m、奥行き0.9m。土台のクッキーの上に、大小六つの家がココアや卵白などで彩られ、高さ60cmの時計台や機関車もある。砂糖とアーモンドを練り合わせた素材で多くの人形を配し、壊れたそりを前にサンタクロースの顔をしていたり、坂道で転んでプレゼントを落としたりと、ユニークな表情や動きが楽しめる。

部長の菅絃奈さん（20）は「部員で意見を出し合い、忙しいクリスマスを表現した。多くの人に見てほしい」と話した。25日まで飾られる。

（藤原裕）

滋賀短期大・生活学科食健康コース



協力し合って伝統食を作る学生たち



中平教授（前列右）と次代の食の担い手になる食健康コースの学生たち

食文化守る若き「伝承者」

聖賢短期大学 大津市庵が丘の生活文化食健康コースでは、海國に思ふく地域の伝統食実習の授業で、次世代への食文化継承に力を用いて、授業を通して学生たちは新たな発見をもった意欲向上につながったりしているという。文化の継承が困難になりつつある状況の中、食の仕事に関わる学生たちの「伝承者」としての活躍が期待される。

食健康コースの学生は、2年間、様々な調理技術を身につけてながら、健康につながる栄養学を学び、栄養士の資格取得を目指している。2年生後期の必須授業以外の15回で開催。歴史の食文化の歴史や風土が工つたの学習を通じ、先人が工夫した調理法を教わり、受け継ぐ力を育もうと、同短大が力を入れているオリジナル授業だ。

今風アレンジ ■ 学外でもレシピ考案



大豆をたっぷり使った伝統食

同学科長の中平真由己教授(56)は「販賣のことを知ったうえで、地域で伝えられる」とは学生たちの自信につながるという、学生の口にも合うようにメニューを工夫。独特な香りで若い人から敬慕され

例えば、日本古来の「コピル」の漢字で「小粒」と書き、農作業の間におなかを満たすための簡単な軽食のこと。こういった風習を学んだ上で、コピルでも食べられていたとされる郷土食の「いもつぶし」や「幸福豆」を調理する。

湖国
人まち

やすいフナずしはバスタに、フナずしの飯はチーズケーキにして食べやすすく。

11月30日の実習。20人の学生たちは、代々引き継がれている「みそ仕込み」のほか、「打ち豆汁」や「五目豆」「煮らす揚げ」などを調理。時間内に設立した力強とフードプロセッサーを活用して、豆を煮たり潰したりした。

[illegible]

「伝統音楽の授業で取り扱う知識や経験は、学外での習得が主で、社会活動にも役立っている」という点に深く共感し、その弊口には「地元文化を使って健康な心配用になさなせしプロジェクト」を導く。冒頭で「さくらさきの里」の道楽の歌「せせらぎの里」の歌詞を中絶して紹介しながら、その直後教授は「自分の祖先が生活したのを知って、家や地域に愛着を持ってほしい」と願っている。

同短大のホム・ムベージでは、同学校風情のテレビが動画中にも公開している。

ホテルに「お菓子の家」 滋賀短大生制作

大津

大津市にお
の浜のびわ湖
大津プリンスホテルは、ク



リスマスシーズンの雰囲気
づくりとして、一階ロビー
で「お菓子の家」を展示し
ている。年末にはお正月を

イメージした装いに変わ
る。来年一月十日ごろま
で。
お菓子の家は滋賀短大生
活学科のパン・スイーツ研
究サークル「ペーカリー

塾」に所属する学生十四人
が制作。クッキーなどで作
った家やキャラクター、ク
リスマスツリーが目进行
く。

今年のテーマは「サンタ
と小人の忙しいクリスマス」。
高さ約六十センチ、縦約
九十センチ、横約百八十センチの作
品では、サンタの村でサン
タと小人がプレゼントの用
意を進める中で、天使たち
の助けを借りながら新しい
そりを作っていくストーリ
ーを表現している。

ホテルの担当者は「日ご
ろの学習の成果を発揮して
もらうとともに、来館され
るお客さまのおもてなしに
つなげたい」と話す。

（山村俊輔）

ホテルロビーにお目見えし
たお菓子の家。大津市のび
わ湖大津プリンスホテルで

地域連携年報 第八号

令和4年3月31日

滋賀短期大学 地域連携教育研究センター

〒520-0803 大津市竜が丘24-4

TEL 077-524-3605 FAX 077-523-5124

SUMiRE